

令和 2 年度

事業所名 : グループホーム「けーせん」

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0372600288		
法人名	社会福祉法人稲泉会		
事業所名	グループホーム「けーせん」		
所在地	〒029-4102 岩手県西磐井郡平泉町平泉字片岡72番地3		
自己評価作成日	令和2年7月31日	評価結果市町村受理日	令和3年1月4日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・今年度より年間の研修計画を整備し、職員が講師を務めることとした。職員の資質向上につなげるため自分で研修内容を考えてもらうこととした。昨年、夜間帯の避難訓練を実施し、防災意識を高めることができた。設備面では移乗動作が低下しても安全に入浴できるためのリフトを導入し、入浴を楽しんでいただいています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

同一法人が運営する特別養護老人ホーム、デイサービス事業が隣接する事業所は、開設後15年目を迎えている。理念として「一瞬一瞬を大切に笑顔で、その人らしい生活リズムで、地域との繋がりを継続するよう支援する」を掲げ、利用者への適切な介護サービスを提供するため、職員の知識や技術の向上を図りながら、利用者や家族の意向や要望などを丁寧に受け止め、介護の質の向上などに繋げる活動に努めている。また、地域との繋がりを重視した法人広報誌「きずな」を年4回、町役場を通じて全戸に配布したり、地元自治会、近隣の障害者施設及び当該法人と防災協定を結ぶなど、地域に事業所情報を提供するほか、不時の災害に備えた体制づくりの充実に取り組んでいる。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和2年8月19日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 ○ 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている ○ 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

事業所名 : グループホーム「けーせん」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	年度初めに事業計画書により理念を共有し、定期的に会議等で確認しています。また、理念を掲示することにより職員への意識付けを行っている。	理念は5年前に管理者で改定し、玄関や事務室に掲示し、職員にはミーティング等で繰り返して周知を図っている。新任職員には管理者から説明し充分理解した上、介護活動の実践に繋がるよう指導している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	七夕会、防災訓練、草刈り奉仕(青年会・民生委員)の活動が定着し、交流が深まっている。昨年度から有償の園芸ボランティアも導入し、交流の輪を広げています。	年4回、法人の会報を町役場の広報と一緒に全戸配布して事業所情報を発信している。自治会に加入していないが、地域の行事、町の文化祭、近所の黄金祭には積極的に参加するなど、地域との交流に努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域サロンの会・運営推進会議を活用し、研修会や行事等により理解を深めてもらっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	活動報告においては、利用者、出席者の意見を出しやすい雰囲気作りに努めています。	運営推進会議は、単独で年6回開催している。イベントや年間行事などに併せ開催することで、施設への理解を深めていただけるよう配慮している。委員から事業所の緊急時に外部に聞こえるサイレン設置の提案があり設置したものの戸建ての住宅は気密性が高く効果があまり出なかった。	運営推進会議は、地域の応援団としての役割が期待されていることから、地域の幅広い人材から委員を委嘱し、地域情報の収集、住民との交流窓口等の充実を図り、更なる事業所の円滑な運営を期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	各種会議の場を活用し、協力関係を維持している。七夕飾りの展示、敬老会、町の文化祭の参加の際は、協力を得ています。	日頃から町役場の窓口との交流は頻繁に行われており、法人広報誌「きずな」を町内の21区に全戸配布しているほか、役場主催の年4回のケア会議への出席、保健所や警察署等の会議にも参加し、ネットワークを意識し情報収集に努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年間の会議・研修計画により身体拘束廃止委員会会議・研修を開催し、理解を深めています。	身体拘束に関するマニュアルを法人として作成している。身体拘束廃止委員会を5月、9月、12月、3月の4回開催し、研修会も9月と12月に実施している。現在、身体拘束に関する事例はないが、スピーチロックについては、乱暴な言葉遣い、乱れた言葉遣いを見た時には会議等で注意するなど、再発の防止を図っている。	

令和 2 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム「けーせん」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	稲泉会の基本方針である「人権を尊重します」のもと身体拘束廃止委員会を活用し、防止に努めています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	虐待防止と同様に、稲泉会の基本方針である「人権を尊重します」のもと身体拘束廃止委員会を活用し、理解を深めています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	話しやすい雰囲気のもと分かりやすい説明に努めています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の方については、日常生活で随時対応しています。ご家族については、面会時に要望等を確認しています。	利用者の意見は、日常の活動、食事及び入浴などの生活全般から声掛けのタイミングを意識した活動の中で、本人の意向や意見を汲み取るよう事業所として職員間で徹底した取り組みを行っている。また、家族からは、面会や受診同行の際に意見をいただいている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議、ミーティングの場以外でも要望があれば随時対応しています。	月1回のチームケア会議において職員から意見を聞く場を設けているほか、必要に応じて何時でも提案を受けている。事業所運営に反映された意見として、介護を充実するための勤務時間のシフト変更や、利用者の高齢化に伴い介護ベッドへ変更やセンサーマットの設置が実現している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	就業規則、給与規程については、働き方改革に沿った内容に随時改正し、職場環境・条件の整備に努めています。		

令和 2 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム「けーせん」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	OJTを基本に職員のレベルを確認し、施設内外の研修を活用し職員の資質向上に努めています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	各種会議、研修会を活用して情報交換を行い、その結果を職員間で共有しているため復命を行っています。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	話しやすい雰囲気作りと傾聴の姿勢で要望の把握に努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	これまでの対応の経験値からご家族が思うであろう事項をイメージして対応しています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	優先課題を導けるようアセスメントに力を入れています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の方のできることに着目し、役割をもってもらうよう働きかけを行っています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会の働きかけ、家族参加の行事(誕生会・敬老会・忘年会等)により関係維持に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの関係維持を図りながら新たな関係の構築してサロンの会、ボランティア関係者(有償園芸ボランティア・有償理髪ボランティア)との交流を図っています。	5年前から有償の理髪を月1回利用し、地元自治会のサロンの会の会場に事業所を提供したり、馴染みの商店へ衣類などの買い物に出かけたり、クリスチャンのため教会に外出するなど、入居前又は入居後の馴染みとの交流機会を無くさないよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者間の人間関係を尊重し、職員は利用者全体を意識した支援を心掛けています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて情報提供等の支援を行っています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の利用者の声をケアプランに反映できるよう努めています。	ケアマネージャーからの情報や個人面談、家族からの情報入手により、子どもの命日の墓参、財産の相続など本人の思いを職員も共有し、必要に応じてケアプランに反映するなど、利用者の思いを職員相互に受け止め、落ち着いた生活が出来るよう支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日々の会話の中から利用者方の人物像を深められるよう支援しています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人生活リズムを把握し、主体的に生活してもらえるよう支援しています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	PDCAのサイクルにより、必要な援助がすぐに提供できるよう計画の見直しを随時行っています。	ケアプランは、月1回のモニタリングを重ねながら半年ごとに見直しを行い、本人、家族の同意を得て本人にプランを交付している。見直しに当たり、本人の気分転換を必要とする場合には、外出を増やしたりしながら、利用者主体の生活ペースを大切にプラン作成を心掛けている。	

令和 2 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム「けーせん」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	客観的事実、本人の声を意識して記録に残すように努めています。その情報を共有し、随時見直しを図っています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	法人の特養、デイサービスセンターを利用(慰問見学)により余暇活動を支援しています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源(近隣住民・民生委員・ボランティア(有償含む)・行政)と連携し行事等を実施しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時には、かかりつけ医の確認を行い、希望する医師により健康管理を行っています。	利用者は、町内或いは一関の医療機関をかかりつけ医とし、整形外科、内科、皮膚科、眼科に通院しており、職員が同行して受診している。往診は一部の医療機関が応えてくれる場合もあるが、これ以上の拡大は難しいとしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日のバイタル測定、食事・摂取量、排泄状況を的確に記録し、異常が見られた場合は速やかに医療と連携を図ることとしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には、情報提供書により医療機関に必要な情報を提供しています。入院中は、定期的な状況を確認しています。		

令和 2 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム「けーせん」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りに関する指針のもと、本人、家族の意向を尊重して対応しています。	利用者の緊急時等の対応マニュアルを作成して対応している。訪問診療までの医療機関の協力が困難なため看取りまでは実施していないが、本人の状況を見ながら場合によっては隣接の特別養護老人ホームへの住み替えで対応している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルを整備し、定期的に急変時対応の研修を行っています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	夜間帯の訓練も昨年から実施し、防災意識を高めています。地域とは、防災協定を結び訓練にも参加してもらっています。	町のハザードマップでは指定になっていないが、隣接する特養を避難所としている。自治会、近所の黄金荘と法人で防災協定を結び、災害時の協力関係が出来ている。備蓄として水、非常食3日分、発電機2台、燃料を備え不測の事態に備えている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	法人の基本方針「人権を尊重します」のもと、会議等で対応について確認を行っています。	利用者の居室のドアは、日中は開放しているが利用者が間違っして入室する場合には施錠する場合もある。利用者と呼ぶ際には「ちゃん付け」ではなく敬称としているほか、トイレ誘導では、プライバシー確保のためニカ所あるトイレの入り口には布カーテンを下げている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表現したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の声を傾聴の姿勢で対応しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の生活リズムを大切に支援しています。		

事業所名 : グループホーム「けーせん」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	出張理髪、外出の機会を設けることにより身だしなみへの関心が薄れないように支援しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	はっとつくり、恵方巻、おやつ作りにより食への関心を高める支援をしています。食器の後片付けも可能な方にはお願いし、役割を担ってもらっています。	食事の献立は隣接の特養の栄養士を活用しながら職員が作成し、調理は専任のパート職員で対応している。外食はお花見の季節に回転寿司、南部屋敷に出かけている。利用者の配膳は難しくなっているため、テーブル拭きなど軽めの仕事をお願いしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	その人の食の嗜好を大切に、支援しています。体調の変化に応じて食事摂取量が低下した場合は、おやつ・飲み物で補うようにしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、利用者の状態に応じて口腔ケアを支援しています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄記録表により排泄状況を把握し、トイレ誘導を行っています。	排泄の自立が2名、リハビリパンツ使用が7名となっているが、個々に排泄パターンを把握し適時に職員がトイレ誘導している。自室でのポータブルトイレ利用者は1名いる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日、昼食前に体操を行ってもらっています。食事以外にも午前・午後のお茶の時間で一定の水分量は摂取してもらっています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	本人の希望を取り入れ、入浴による爽快感が得られるように支援しています。浴槽の出入りが困難な方もリフトを利用して安全に快適に入浴していただいています。	入浴は週に2回、午前と午後に分かれて利用しているが、必要に応じてシャワー浴を加えることもある。ユニットバスのため、底が滑りやすい利用者には滑り止めのマットを敷いている。シャンプー、リンスは事業所で備え、入浴剤は市販の製品を活用している。羞恥心のある利用者には入浴を強制することなく、自発的に入浴するよう促している。	

令和 2 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム「けーせん」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その人の生活リズムを尊重し、活動を取り入れて支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋をケースにファイルし、薬の服薬方法、効果を理解し、支援しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	今、できていること、関心のある事を中心に支援しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。 又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩、ドライブ、買物等の外出支援を積極的に支援しています。	利用者のストレス解消として、法人の自家用車2台を活用し、買い物に出かけたり、遊水池や巖美でのお花見やサファリパークに出かけたりしている。事業所周辺の散策は坂道が多く狭いため、バスハイクを中心にした外出支援に努めている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出、買物の機会により金銭感覚の低下防止に努めています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の気持ちをくみ取り、家族等との関係が希薄にならないよう支援しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関、ホールに季節の花をいけたり季節感を醸し出す装飾を心掛けています。	共用する空間は、眺望が開けた天井の高い広いスペースを確保し、その中に食卓テーブルや椅子などを配置し、奥には畳敷きの空間を設け、利用者がゆったりと生活できる過ごしやすい場所として整備されている。	

令和 2 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム「けーせん」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂ホールを基本に和室、テラスの活用も心掛けています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好み のものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	畳部屋、洋室、電動ベットを用意し、選択できるようにしています。本人の馴染みの物は部屋に飾るようにしています。	居室には介護ベッド、お湯の出る洗面台、エアコン、クローゼットなどが設置され、壁には利用者が出品した作品や習字、家族写真、カレンダー等が掲示され、明るく清潔な居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下、トイレ、浴槽には、利用しやすい位置に手すりを設置し、非常口には手すりの他にスロープも設置しています。また、屋外には非常サイレンも設置し災害時の安全対策を講じています。		